

**Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric
10GbE Network Express Module** ご使用に
あたって



Part No: 821-3095-10
2010 年 8 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
関連マニュアル	5
このドキュメントについて (PDF および HTML)	6
コメントをお寄せください	6
変更履歴	6
『Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM ご使用にあたって』の概要	7
製品情報	9
サポートされているソフトウェアとファームウェア	9
サポートされているハードウェア	10
ハードウェアおよびネットワークに関する問題	13
100 m のケーブルで 1G バイトの状況ではパケットが欠落する (6879222)	13
ILOM の問題	15
ILOM フェイルオーバーモードとプライベートモードを同時に有効にすることができない (6911661)	15
NEM の電源が投入されていないと NEM SP IP アドレスを設定できない (6938660)	16
ipmitool コマンドが失敗する (6940791)	16
FMA がサポートされない (6938667)	17
NEM ILOM で Prepare-to-Remove と Return-to-Service が動作しない (6948103)	17
Prepare-to-Remove を設定する際に緑色の背面 SAS リンク LED がすべて点灯する (6950981)	18
オペレーティングシステムの問題	19
NEM を繰り返し交換するとサーバーモジュールがハングアップすることがある (6935520)	19

はじめに

この「はじめに」では、関連ドキュメント、Oracle へのフィードバックの送信、およびドキュメントの変更履歴について説明します。

- 5 ページの「[関連マニュアル](#)」
- 6 ページの「[このドキュメントについて \(PDF および HTML\)](#)」
- 6 ページの「[コメントをお寄せください](#)」
- 6 ページの「[変更履歴](#)」

関連マニュアル

次に、Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module に関連するドキュメントの一覧を示します。これらのドキュメントとその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr#hic>

ドキュメント	説明
『Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module ご使用にあたって』	Virtualized M2 NEM についての重要な最新情報。
『SFP+ Module Installation Guide for the Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module』	Virtualized M2 NEM 用の SFP+ モジュールのインストール方法。
Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 各種マニュアル	ILOM による NEM M2 の監視についての情報。
『Sun Blade 6000 Modular System Safety and Compliance Guide』	Sun Blade 6000 モジュールシステムについての安全性情報とコンプライアンス情報。
『Sun Blade 6000 Modular System Product Notes』	Sun Blade 6000 モジュラーシステムについての重要な最新情報。
『Sun Blade Storage Module M2 管理ガイド』	Sun Blade Storage Module M2 による管理タスクの実行方法。

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトで簡体字中国語、日本語、韓国語、スペイン語、フランス語の翻訳版が入手可能です。英語版ドキュメントは頻繁に改訂されており、翻訳版よりも新しい情報が記載されています。

このドキュメントについて (PDF および HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、節などの番号はありません。

コメントをお寄せください

ドキュメントの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。ご意見を投稿するには、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「Feedback」をクリックしてください。

変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2010 年 7 月、初版。
- 2010 年 8 月、『ご使用にあたって』を SW 2.0.1 の情報に改訂。

『Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM ご使用にあたって』の概要

この『ご使用にあたって』には、Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module (Virtualized M2 NEM) に関する重要な最新情報が記載されています。

本書は次のトピックで構成されています。

- 9 ページの「製品情報」
- 13 ページの「ハードウェアおよびネットワークに関する問題」
- 15 ページの「ILOM の問題」
- 19 ページの「オペレーティングシステムの問題」

製品情報

この節では、次のトピックについて説明します。

- 9 ページの「サポートされているソフトウェアとファームウェア」
- 10 ページの「サポートされているハードウェア」

サポートされているソフトウェアとファームウェア

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 9 ページの「使用可能なファームウェアとソフトウェア」
- 10 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」

使用可能なファームウェアとソフトウェア

製品のファームウェアとソフトウェアへのアクセス方法については、Virtualized M2 NEM の製品ページ <http://oracle.com/goto/10gbenemm2> を参照してください。

Software Release 1.0.1

Software release 1.0.1 には、Sun Blade Server X6270 M2 における SG-SAS6-REM-Z REM のサポートを有効にするために使用する、Virtualized NEM SAS エクスパンダファームウェアのアップデートが含まれます。

ソフトウェア 1.0.1 では、次のものが更新されました。

- SAS エクスパンダファームウェア: 5.3.6.0

注 - SG-SAS6-REM-Z REM のサポートを有効にするためには、ソフトウェアバージョン 3.2.2 (ILOM 3.0.10.15b) を使用して CMM ILOM も更新する必要があります。

Software Release 1.0

Virtualized M2 NEM の初期リリースでは、次のファームウェアとソフトウェアが提供されています。

- SAS エクスパンダファームウェア: 5.3.4.0
- ILOM ファームウェア: 3.0.10.16 R55537
- サポートされるオペレーティングシステム用のドライバは、Tools and Drivers CD に入っています。
OEL OS の場合、対応する RHEL ドライバを使用してください。

サポートされているオペレーティングシステム

Virtualized M2 NEM でサポートされる各オペレーティングシステムの最小要件は次のとおりです。

- Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) 10/08 (64 ビット)
- Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.4 (64 ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 (64 ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (64 ビット)
- Windows 2008 R2 (64 ビット)
- Windows 2008 SP2 (64 ビット)
- VMware ESX 4.0 U1

サポートされているハードウェア

このセクションでは、次の項目について説明します。

- [10 ページの「サポートされているサーバーとストレージモジュール」](#)
- [11 ページの「Sun Blade 6000 シャーシおよびミッドプレーン」](#)

サポートされているサーバーとストレージモジュール

Virtualized M2 NEM を使用する場合にサポートされているストレージモジュールは、Sun Blade Storage Module M2 だけです。

次の表に、Virtualized NEM M2 を使用する場合にサポートされているサーバーモジュールと、対応する FEM および REM を示します。

サーバーモジュール	サポートされている FEM	サポートされている REM
Sun Blade Server X6270 M2	X4278A、X4263A-N	SG-SAS6-R-REM-Z
Sun Blade Server T6320	X4835A-N	SG-SAS6-REM-Z

サーバーモジュール	サポートされている FEM	サポートされている REM
Sun Blade Server T6320 M2	X4835A-N	SG-SAS6-REM-Z
Sun Blade Server T6340	X4835A-N	SG-SAS6-REM-Z

Sun Blade 6000 シャーシおよびミッドプレーン

Virtualized M2 NEM は、PCIe 2.0 ミッドプレーンと ILOM バージョン 3.0.10.15a (Sun Blade 6000 ソフトウェアリリース 3.2.1 に含まれる)以降が使用された Sun Blade 6000 シャーシに取り付ける必要があります。

シャーシに PCIe 2.0 ミッドプレーンが搭載されているかどうかは、CMM ILOM にログインし、次に示す手順のいずれかを実行して確認できます。

- Web インタフェースを使用し、左の区画から「CMM」を選択して「System Information」→「Components」の順に選択し、続いて「Component Manager Status」テーブルで「/CH」をクリックします。
- CLI を使用し、プロンプトで show/CH コマンドを入力します。
fru_part_number フィールドにミッドプレーンの製造パーツ番号が表示されます。
 - パーツ番号が 541-3789-xx 以降の場合、PCIe 2.0 ミッドプレーンが搭載されています。
 - パーツ番号が 541-1983-0x の場合、以前のバージョンの PCIe ミッドプレーンが搭載されており、PCIe 2.0 ミッドプレーンにアップグレードする必要があります。

最新情報は、『Sun Blade 6000 Modular System Product Notes』を参照してください。

ハードウェアおよびネットワークに関する問題

次の表は、現時点でのハードウェアに関する注意事項の一覧です。

変更対象	回避方法?
13 ページの「100 m のケーブルで 1G バイトの状況ではパケットが欠落する (6879222)」	はい

100 m のケーブルで 1G バイトの状況ではパケットが欠落する (6879222)

66 m を超えるケーブルを使用し、リンク速度を 1G バイトでネゴシエートすると、オンボード Ethernet デバイスでのパケット欠落率が過度に高まる場合があります。

▼ 回避策

- 次にいずれか、または両方を行います。
 - 66 m 以下の Ethernet ケーブルを使用します。
 - Ethernet リンクを強制的に 100 M バイトにします。

ILOM の問題

次の表に、現在の ILOM に関する問題を一覧します。

変更対象	回避方法?
15 ページの「ILOM フェイルオーバーモードとプライベートモードを同時に有効にすることができない (6911661)」	はい
16 ページの「NEM の電源が投入されていないと NEM SP IP アドレスを設定できない (6938660)」	はい
16 ページの「ipmitool コマンドが失敗する (6940791)」	はい
17 ページの「FMA がサポートされない (6938667)」	なし
17 ページの「NEM ILOM で Prepare-to-Remove と Return-to-Service が動作しない (6948103)」	はい
18 ページの「Prepare-to-Remove を設定する際に緑色の背面 SAS リンク LED がすべて点灯する (6950981)」	なし

ILOM フェイルオーバーモードとプライベートモードを同時に有効にすることができない (6911661)

ILOM Web インタフェースまたは CLI でフェイルオーバーモードオプションとプライベートモードオプションの両方の状態を同時に変更すると、どちらの変更も反映されません。続いてシャーシにブレードを挿入した場合、そのブレードでは NEM Ethernet 10GbE インタフェースの検出と設定が行われません。

▼ 回避策

フェイルオーバーモードとプライベートモードを有効にする手順の詳細については、『Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module ユーザーズガイド』の「非公開モードとフェイルオーバーモードの有効化」を参照してください。

- 次のいずれかの手順を実行します。
 - この問題を避けるには、各オプションを個別に有効または無効にします。
 - この問題から回復させるには、次の操作を行います。
 - a. 加えた変更の1つを取り消し、取り消しを適用します。
 - b. もう一度変更し、変更を適用します。

NEMの電源が投入されていないとNEM SP IPアドレスを設定できない(6938660)

NEM SPを静的モードに設定している場合で、NEMの電源が投入されていないときは、NEM SP IPを設定できません。IPアドレスの設定が成功したかのように見えますが、更新は正常に完了していません。

▼ 回避策

- 静的NEM IPアドレスの更新または設定を行う前に、必ずNEM SPに電源を入れます。

ipmitool コマンドが失敗する(6940791)

リモートホストからNEMクライアントに対してipmitoolコマンドを使用する場合は、まれに次のエラーメッセージが表示されます。

```
SDR Record ID 0x0009 invalid length
```

▼ 回避策

- 1 エラーが発生する場合は、ipmitoolコマンドを再試行します。
- 2 コマンドが再び失敗する場合は、30秒待ってからコマンドを再試行します。
- 3 コマンドが引き続き失敗する場合は、保守担当者に連絡します。

FMA がサポートされない (6938667)

ILOM は、Virtualized NEM M2 ILOM 上の FMA をサポートしません。ほかの ILOM プラットフォームと同様に、FMA シェルとユーティリティーは存在しません。

NEM ILOM で Prepare-to-Remove と Return-to-Service が動作しない (6948103)

Virtualized M2 NEM CLI インタフェースでソフトウェア支援のホットプラグ操作 `prepare_to_remove` または `return to service` の開始を試みた場合、NEM ではそのホットプラグ操作が完了されません。

▼ 回避策

- 次のいずれかの手順を実行します。
 - CMM CLI インタフェースからホットプラグコマンドを実行します。
 - a. CMM CLI にログインします。
 - b. ディレクトリを NEM ディレクトリに移動します。

```
cd /CH/NEMx/
```

`x` は NEM0 または NEM1 です。
 - c. CMM CLI を使用してソフトウェアホットプラグプロセスを行う手順については、『[Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module ユーザーズガイド](#)』の「ホットプラグによる挿入と取り外しの実行」を参照してください。
 - ハードウェアベースのホットプラグによる取り外しを開始するには、『[Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 Network Express Module ユーザーズガイド](#)』の「ホットプラグによる挿入と取り外しの実行」に説明されている方法でアテンションボタンを使用します。

Prepare-to-Remove を設定する際に緑色の背面 SAS リンク LED がすべて点灯する (6950981)

CMM または Virtualized M2 NEM CLI コマンドを使用してホットプラグによる取り外しを試みると、Virtualized M2 NEM 背面の mini-SAS ポートで、外部 mini-SAS LED が点灯する場合があります。

Virtualized M2 NEM の機能には何も影響しません。Virtualized M2 NEM では、現在、外部 mini-SAS コネクタはサポートされていません。

オペレーティングシステムの問題

次の表は、現時点でのオペレーティングシステムに関する注意事項の一覧です。

変更対象	回避方法?
19 ページの「NEM を繰り返し交換するとサーバーモジュールがハン グアップすることがある (6935520)」	はい

NEM を繰り返し交換するとサーバーモジュールがハン グアップすることがある (6935520)

SAS Storage 6Gb SAS REM HBA コントローラが取り付けられたサーバーモジュールが Oracle Enterprise Linux 5.4 で稼働している状態で、Virtualized M2 NEM の一方または両方を立て続けに繰り返し交換すると、ブレードがハングアップすることがあります。

▼ 回避策

- 必要に応じ、次のいずれかの操作を実行します。
 - NEM を交換する場合は、障害が発生した NEM を取り外したあと、5 分待ってから新しい NEM を取り付けます。
 - サーバーモジュールがハングアップする場合は、サーバーモジュールを再起動し、エラーから回復させます。

